

日本鉄鋼協会記事

理事会 (第7回)

開催日: 昭和40年10月14日. 場所: 協会々議室. 出席者: 湯川会長他33名.

会議事項

各支部との意見交換

各支部よりいろいろ意見が出たが問題になったのは以下の点であった.

- 講演大会で発表する論文の質をよくするため編集委員会の前に会社で提出論文を選択する方法.
 - 理論的論文が減っているが, 増加の方策がほしい.
 - 論文は完全に結論が出てから出すべきだがそれとは別にその過程にだけ早く誌上にのせることも希望される. このためには要旨を書いた前刷とするしかない.
 - 支部補助金の増額要望
 - 支部報告欄をもうけてほしいという要望
 - 地方でもつと講演会をやつてほしいという要望
- 以上諸問題と企画委員会・編集委員会に諮ることに決定.

企画委員会

第7回委員会 開催日: 昭和40年10月4日. 場所: 協会々議室. 出席者: 辻畑委員長他24名.

会議事項

1. 地方支部対策について

10月14日の理事会には支部長も多数出席するので各支部との関係を密接にするための会とした各支部長から種々要望を述べてもらい, それを考慮して今後の方針を検討する.

2. 国際鉄冶金会議の開催予定について

1969年に同会議を予定していたが同年が英国鉄鋼協会の創立100年目にあたるので1968年が70年に変更になる. 先の事ではあり両方とも利点があるので共同研究会の部会長, 主査とも意見を交換しあい, さらに検討する.

研究委員会

第7回委員会 開催日: 昭和40年10月25日. 場所: 協会々議室. 出席者: 今井委員長他16名.

会議事項

1. 講演会, 講習会実施計画案について

テーマおよび順位について次のように決定した.

順位

テーマ

- 鋼中ガスの影響について
- 真空脱ガス法の現状と問題点
- 合金元素選定の考え方
- 鉄鋼材料の静的機械性質と衝撃的機械性質
- 超高圧の影響について
- スケールアップについて

その他 規格改訂について (41年2月~3月実施)

- 41年度鋁工業技術試験研究補助金申請について

編集委員会

第8回委員会 開催日: 昭和40年10月26日. 場所: 協会々議室. 出席者: 荒木委員長他.

会議事項

1. 論文審査報告

報告数4件, 掲載可原稿1件, 修正のため返却原稿3件

2. シンポジウム小委員会, 抄録小委員会, 寄稿規程に関する改善小委員会報告

3. 学振第54委員会制定事項の会誌掲載について

4. 書評執筆依頼について

5. 新編集委員担当について

田中良平氏 (性質)

シンポジウム小委員会・改善小委員会

阪部喜代三氏 (加工)

シンポジウム小委員会・技術資料小委員会

鈴木正敏氏 (加工・性質)

オーバーシーズ委員会・抄録小委員会

資料委員会

第23回委員会 開催日: 昭和40年10月8日. 場所: 協会々議室. 出席者: 草川委員長他14名.

会議事項

1. “会誌”に U.D.C を付けるか否かについて活発な討論が交された.

2. 協会ニュースの改善について

協会ニュースは会誌にも1ヶ月遅れて掲載されるため, 来年度から内容, 形式を改善し協会のP.R.も兼ねて発行し, 今までのニュースは会誌の別刷の形で庶務, 総務関係に配布したらどうかなどの討論が行なわれた.

共同研究会

鋼板部会

コールドストリップ小委員会

第2回小委員会 開催日: 昭和40年10月8日. 場所: 富士製鉄(株)本社. 出席者: 吉田幹事他30名

会議事項

1. 共通議題

(1) 焼鈍設備, 電清設備, 調質圧延設備の3設備諸元につき各社提出資料の説明, 討議を行なった.

(2) 次回は次工程の剪断関係を中心とした議題で行なう.

2. 工場見学について

先に本小委員会の開催に合せ(冷延関係)工場見学を実施するのは是非につき, 照会を行なったところ各社とも許可との返事が得られ次回より工場見学も

行なうことに決定した。

ホットストリップ小委員会

第3回小委員会 開催日: 昭和40年10月19, 20日. 場所: 川崎製鉄(株)千葉製鉄所, 出席者: 吉田幹事他40名
会議事項

1. 共通議題

- (1) スラバヤードおよびコイルヤードについて
- (2) ロールおよびロール冷却水について
- (3) ロールの肌荒れについて

以上の3議題につき各社提出資料の説明, 討議を行なった。

2. 第2日 千葉製鉄所第1, 第2熱間圧延工場を中心とした工場見学を行なった。

条 鋼 部 会

中小形分科会

第19回分科会 開催日: 昭和40年10月6, 7日. 場所: 富士製鉄(株)室蘭製鉄所. 出席者: 涌島主査他
会議事項

1. 新主査涌島氏あいさつ (神戸製鋼所尼崎工場圧延部長)
2. テーマ研究
 - A. 製品寸法精度向上対策
 - B. 一級歩留向上対策
3. 自由研究
20社より提出
4. 次回開催予定
大阪地区で具体的には, 主査に一任。
5. 今後の運営方針

鋼 管 部 会

第5回部会 開催日: 昭和40年10月25日. 場所: 富士三機鋼管(株)および川崎製鉄(株)知多工場. 出席者: 原田部会長他78名.
会議事項

第1日目

品質保証の観点よりテーマを「異常ロットの処理について」に選び, 溶接管, 継目無管分科会とも, 異常ロットと判定する基準, その処理基準について審議した。午後より富士三機鋼管の工場見学を行なった。

第2日目

溶接管, 継目無管両分科会に分れ, それぞれ「加熱穿孔疵について」「電縫管の溶接性について」をテーマとし, 活発な討議を行なった。

午後川鉄知多工場の見学。

熱 経 済 技 術 部 会

第32回部会 開催日: 昭和40年10月26, 27日. 場所: 学士会館(赤門), 鉄鋼連盟会議室. 出席者: 桑畑副部会長他48名.
会議事項

議題を (1) 副生ガスの基準熱量 (2) タイルレキュペレーターの使用実績とその劣化防止対策 (3) 工業窯

炉の煤煙防止に関する研究 (4) 加熱炉の能力算定方式について (5) 熱風炉における経済的空気予熱装置に関する研究 (製鉄部会発表の報告書を抜すい) (6) 各社使用重油[S%]の使用実績と規格決定の経過 (7) その他として研究発表を行なったが今回問題になった点は

(イ) 副生ガスの基準熱量で幹事会案

B. F. G : 800 kcal/Nm³

転炉ガス: 2400 kcal/Nm³

COG : 4800 kcal/Nm³

に対して数値に若干検討の余地がある, 使用開始時期を暦年の1月よりはじめることができるかどうかで問題が残されており幹事会で更に検討することになった。また分科会を設置し加熱炉設備能力算定方式を求めることになり, 主査を大塚氏(住金)幹事会社を住金, 神鋼川鉄, 富士(広畑)の関西グループとメーカーの中外炉とすることに決定した。

計 測 部 会

第32回部会 開催日: 昭和40年10月5, 6日. 場所: 鉄鋼会館(大阪). 出席者: 磯部副部会長他78名.
会議事項

1. 特別議題, 鉄鋼オートメーション国際会議およびヨーロッパ製鋼業におけるオートメーションの現状。(鉄鋼連盟)
2. 共通議題, 計測器校正のための設備とその精度管理について: 資料提出; 八幡(八幡・光・堺)富士(室蘭・釜石・広畑)鋼管(川崎・鶴見・水江)川鉄(葺合・千葉・西宮)住金(小倉・製鋼・鋼管)神鋼, トピー(東京)日新(呉)東海, 中山, 大阪製鋼, 大同, 愛知, 日鋼
3. 自由議題(以下同じ)高炉および高炉付帯設備の計測制御: 川鉄(千葉)
4. 製鋼関係の計測制御: 富士(釜石)鋼管(川崎)川鉄(西宮)住金(製鋼)日新(呉)中山
5. 集中管理: 八幡(八幡)住金(小倉・和歌山)鋼管
6. 熱処理炉の計測制御: 富士(広畑)
7. 計測制御上の問題点: 鋼管(本社鶴見)大同(中研)
8. データ処理: 計算制御などに関する資料, 実例(東芝)
9. 見学会: 住友金属・鋼管

秤 量 分 科 会

第19回分科会 開催日: 昭和40年10月28日, 29日. 場所: 久保田鉄工・本社(大阪). 出席者: 中沢主査他47名
会議事項

1. 原料荷揚げの秤量: 鋼管(鶴見)川鉄(千葉)久保田
2. 製鉄関係の秤量: 富士(釜石)鋼管(川崎)
3. 製鋼関係の秤量: 住金(小倉)
4. 圧延関係の秤量: 富士(広畑)
5. 秤量機の検査保全: 八幡(八幡)
6. 特別講演, 油圧を用いた秤量機について: 久保田鉄工・首藤氏
7. 見学会, 久保田鉄工衡機工場。

調査部会

第18回部会 開催日：昭和40年10月18, 19日。場所：協会々議室。出席者：木寺部会長他32名。

会議事項

1. 前回部会報告のとりまとめについて
(資料；在京幹事会)
 2. 定期交換資料について (資料；在京幹事会)
 3. 原料専用(兼用)岸壁能力合同調査結果について
(資料；在京幹事会)
- この調査に要した費用は参加各社の均等負担とした。
4. 次回の調査テーマについて
 - (1) 輸送関係の(中間)報告書作成
 - (2) 輸送関係の要員に関する調査
 - (3) 成品の輸送について
 - (4) 原料岸壁合同調査の継続
 - a. 港湾関係設備の経済的考察
 - b. 入港調整の効果

各テーマの調査手順などについては在京幹事会で検討することにした。
 5. 見学会 日本鋼管扇島原料センター

新技術開発部会

発光分光分析分科会

在京委員会 開催日：昭和40年10月7日。場所：竜名館。出席者：杉山主査他6名。

会議事項

共同実験結果の委託計算による集計分析手順について

設備技術部会

第1回幹事会 開催日：昭和40年10月7日。場所：学士会館(神田)。出席者：木寺幹事長他10名

会議事項

1. 本部会設置までの経過報告を行なった。
2. 幹事会社(日本鋼管)より本部会の運営方針、製鉄機械の輸入状況に関するアンケート調査、本部会として取上げるべき研究テーマにつき主旨、内容の説明があり討議を行なったが若干問題点もあり、再度幹事会を開き検討する。

標準化委員会

普通鋼分科会

第6回分科会 開催日：昭和40年10月19日。場所：竜名館。出席者：木山主査他19名。

会議事項

JIS 専門委員会の打合せとして一般鋼材、ボイラー鋼材についての検討を行なった。

現在の焦点は、SM材の降伏点に対する引張強さをいくくらにするか、あるいはSM材を何クラスにわけるかということに集中し検討中である。

高速度鋼原案分科会

第1回分科会 開催日：昭和40年10月7日。場所：学士会館(神田)。出席者：荒木主査他11名。

会議事項

1. 小委員会における JIS G4403(高速度鋼)改訂の準備作業報告
2. 幹事会社大同製鋼提出の素案を、分科会で採り上げこれについて逐条審議することを承認
3. 素案の前半までの逐条審議を終了

焼入硬化層原案分科会

第2回分科会 開催日：昭和40年10月27日。場所：協会々議室。出席者：小犬丸主査他9名。

会議事項

焼入硬化層深さ測定方法工業標準原案作成のための分科会案に関する第1回目の検討を行なった。今回問題になった点についての修正を行ない次回で原案が作成できる見通しとなった。

熱処理用語原案分科会

第2回分科会 開催日：昭和40年10月22日。場所：協会々議室。出席者：佐藤主査他13名。

会議事項

各委員から寄せられた用語(案)の整理結果について審議し、若干の取捨選択を行ないさらに用語を焼入、焼戻関係、焼準焼鈍滲炭窒化関係、および性質、処理変態組織試験関係の3グループに分けた。この3グループをそれぞれ荒木先生(東大)田中先生(東工大)長谷川先生(早大)に担当して頂いてグループ内で用語を選択することにした。この結果について次回委員会で報告、検討を行なう。

機械用鉄鋼規格調査委員会

第1回委員会 開催日：昭和40年10月28日。場所：協会々議室。出席者：作井委員長他13名。

会議事項

1. 事務局より本委員会組織に至るまでの経過報告を行なった。
2. 本委員会委員長に東工大作井教授を推挙した。
3. 調査表案につき検討を行なったが機械メーカー側鉄鋼メーカー側とも問題点が多くあり次回再度検討を行なうこととした。

鉄鋼基礎共同研究会

非金属介在物部会

第1回幹事会 開催日：昭和40年10月27日。場所：竜名館。出席者：荒木主査他16名。

会議事項

1. 部会運営内規について
部会、幹事会の目的、運営について明らかにしかつ、委員構成の問題を処理する内規について検討を加えた。これにより、次の部会に草稿を提出することとした。
2. 委員構成について
部会委員にはほとんど旧分科会委員が就任し、幹事会メンバーは、旧小委員会委員に数社を補うこととし、提出された名簿案を一部修正して承認した。
3. 共同研究の進行について、現状報告が6社よりあり、鋼塊・鋼片からのブロック試料採取の仕様が決定された。

溶鋼・溶滓グループ下打合せ

開催日: 昭和40年10月26日. 場所: 協会々議室. 出席者: 斉藤世話人他6名.

会議事項

基礎研溶鋼・溶滓グループも部活動を行なうべく、今後の方針について下打合せを行なった。12月3日に大学・会社研究所の関係者により溶鋼溶滓グループ準備委員会を開くこと、その会にて今後の活動について討議をすること、また準備として関係者に同グループについてのアンケートを出しあらかじめ意見を聞いておくことなどを話合った。

試験高炉委員会

第5回幹事会 開催日: 昭和40年10月28日. 場所: 協会々議室. 出席者: 山本主査他10名.

会議事項

東大試験高炉第17次操業についての幹事会案作成を行なった。今回も第16次操業に引続き送風限界に関する試験を主とし、そのための予算を算出し11月5日の本委員会にかけ、委員会案とし、9日の企画委員会、15日の鉄連銑鉄部会に諮って正式決定される。

国内炭活用製鉄用コークス 製造試験公開見学会

開催日: 昭和40年10月9日. 場所: 八幡製鉄所. 出席者: 久田委員長他50名.

会議事項

本試験は委員会組織で運営されているが、(かねてより公開してほしいとの要望もあり)試験の国家的意義を考え、広く国内の関係者に試験を公開し、忌憚なき意見を求めるという趣旨で、今回公開見学会を開いたものである。

午前中説明と質疑応答、午後見学と討論を行ない盛会裡に会を終了した。

クリープ委員会

JIS 改訂分科会

小委員会 開催日: 昭和40年10月5日. 場所: 材料学会(京都). 出席者: 平主査他6名.

会議事項

1. 現行の JISZ 2271 および 2272 (クリープおよびクリープ破断試験法) の改訂の委託を受けたので、まず諸外国の同法の実情を調査すべく、資料を収集したものについて研究した。
2. 次回の小委員会までに幹事は JIS と諸外国規格との比較対照表を作り、かつ改訂素案を準備することとした。

クリープデータシート分科会

第1回分科会 開催日: 昭和40年10月25日. 場所: 金属材料技術研究所会議室. 出席者: 作井部会長他13名.

会議事項

金材技研材料試験部では本年度クリープ試験研究設備

を建設中であるが、41年度よりクリープデータシート作成のための試験計画を予定している。そこで当クリープ委員会ではこれに積極的に協力するため標記の分科会を当技術部会に設置した。

上記に関する第1回会議を開催したがその概要は次のとおりである。

1. 分科会の名称を次のようにすることを了承する。
クリープデータシート作成作業方案分科会 (略称クリープデータシート分科会)
2. 試験対象鋼種につき (1) 炭素鋼, (2) 低合金鋼 (3) ステンレス鋼に関する14鋼種を41年度着手すべきものとし, (4) 耐熱鋼および, (5) 耐熱鋳鋼については41年度は対象から外すこととした。
3. クリープデータシート作成作業方案(試案)の1部検討を行なうとともに、この審議を進めるに当り、鋼種を提供する製造会社を幹事会に依頼し、選定することが了承された。

海外派遣第1回打合せ

開催日: 昭和40年10月1日. 場所: 協会々議室. 出席者: 作井副会長他5名.

会議事項

1966年4月ロンドンで開催される鋼の高温特性に関する会議に関し次のことを確認した。

1. この会議は BISRA と英国鉄鋼協会共同主催による英国内の会議に8カ国を招請していること。
2. このための論文はすべてレポーターに提出され、会議は討論形式で進められること。

鉄鋼照射試験研究合同委員会

臨時立会者連絡会 開催日: 昭和40年10月29日. 場所: 三菱原子力工業, 会議室. 出席者: 長谷川委員長他11名.

会議事項

1. 第1次照射試験は10月28日より原子炉に挿入照射を開始した。
2. 第2次照射試験は11月末より照射開始する。
3. 照射後試験の Time Schedule および立合予定日程(各担当者)の確認を行なった。
4. 照射後試験費用が若干変化したので一部費目変更を行なった。
5. 第3次試験の試験片本数を一部変更した。

支 部 記 事

北陸支部

本会北陸支部では、日本金属学会北陸・信越支部と連合で講演会・総会・懇親会・見学会を開催した。

期 日 昭和40年11月25日 (講演会)

会 場 金沢大学教養部

講 演 17-4pH 不銹鋼における残留オーステナイトの安定化

金沢大学理学部 竹村松男・広瀬幸雄
他 20 講演

見学会 昭和40年11月26日

国鉄松任工機部・日本硬質陶器・小堀酒造
(以下学術振興会記事 86ページへつづく)